

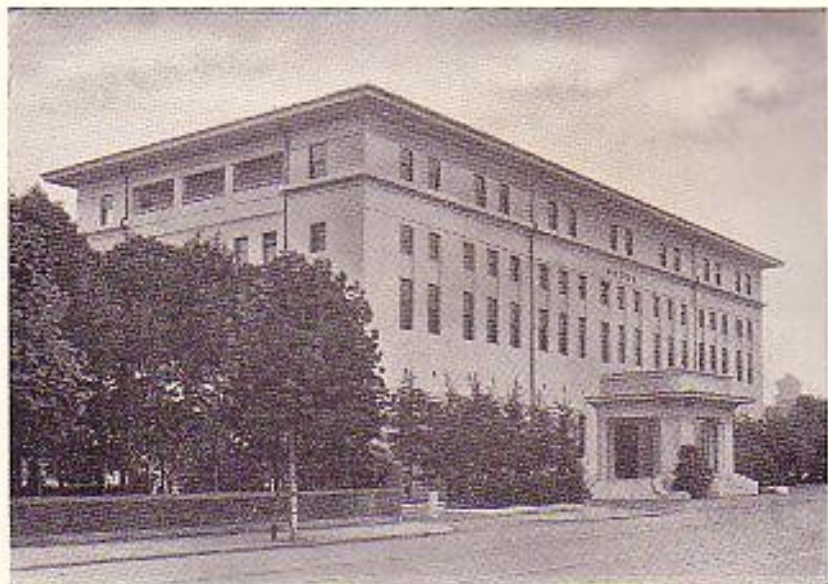
昭和十一年十一月十一日

武
道
館
概
要

神
奈
川
縣

目次

- 一、武道館案内圖
- 二、寫真
 武道館全景
 貴賓室
 劍・柔道場
 弓道場
- 三、武道館建設ノ趣旨並ニ經過……………(一)
- 四、武道館建築工事概要……………(三)
- 五、武道館關係諸規程……………(七)
 武道館規程……………(七)
 武道館使用規則……………(九)
 武道館規程施行細則……………(一一)
- 六、武道館職員及役員……………(一九)



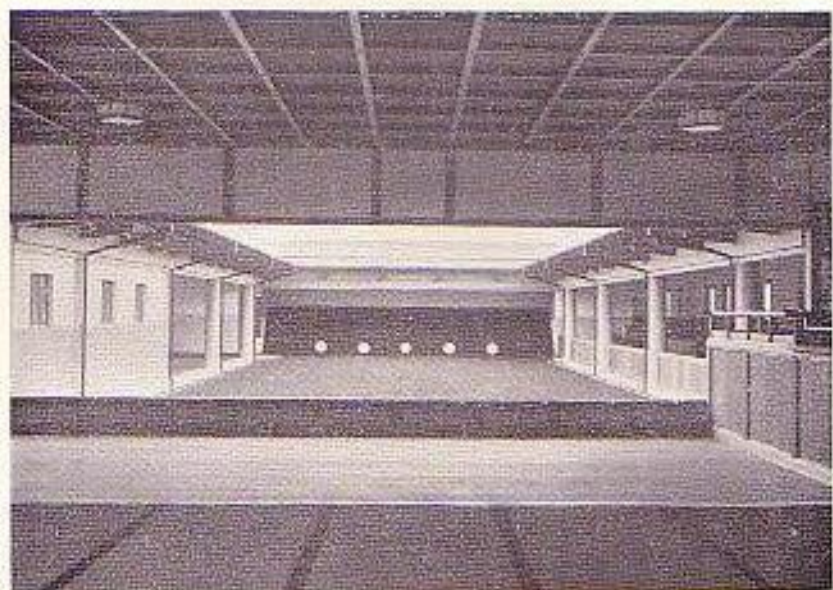
(武 道 館 全 景)



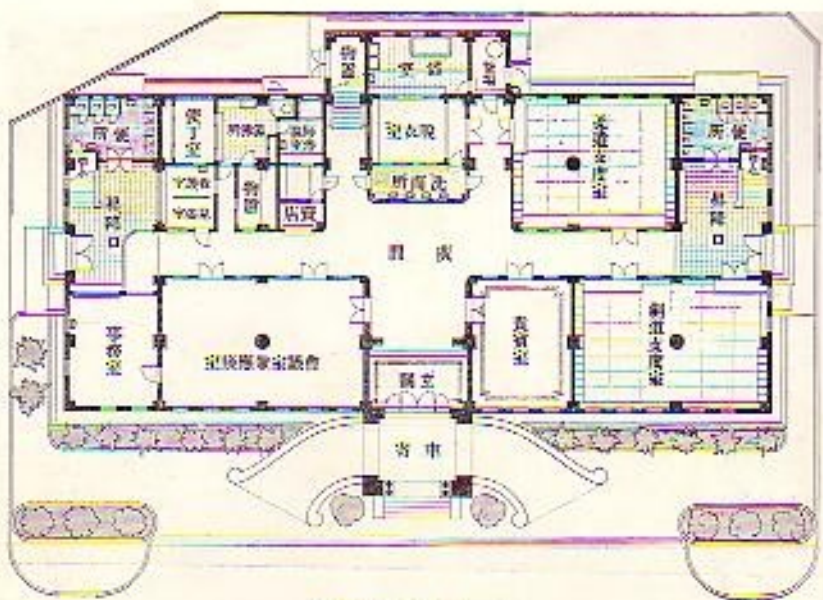
(貴 賓 室)



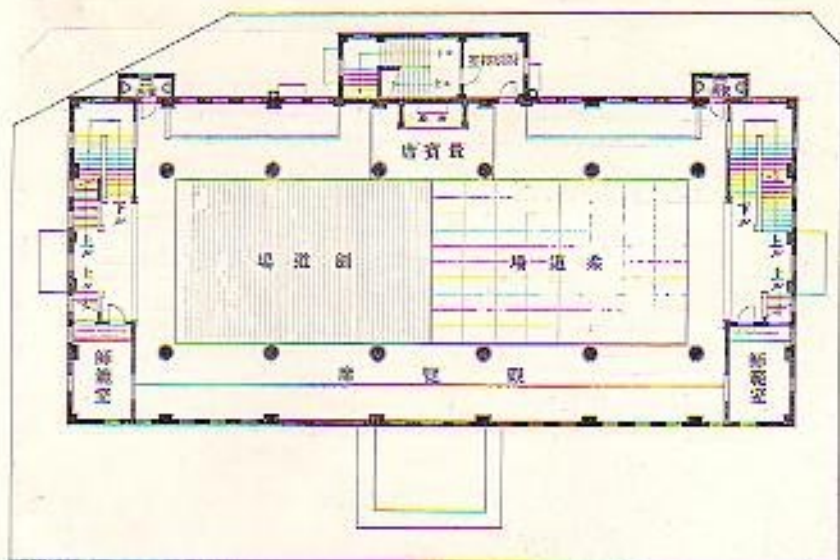
(場道柔・剣)



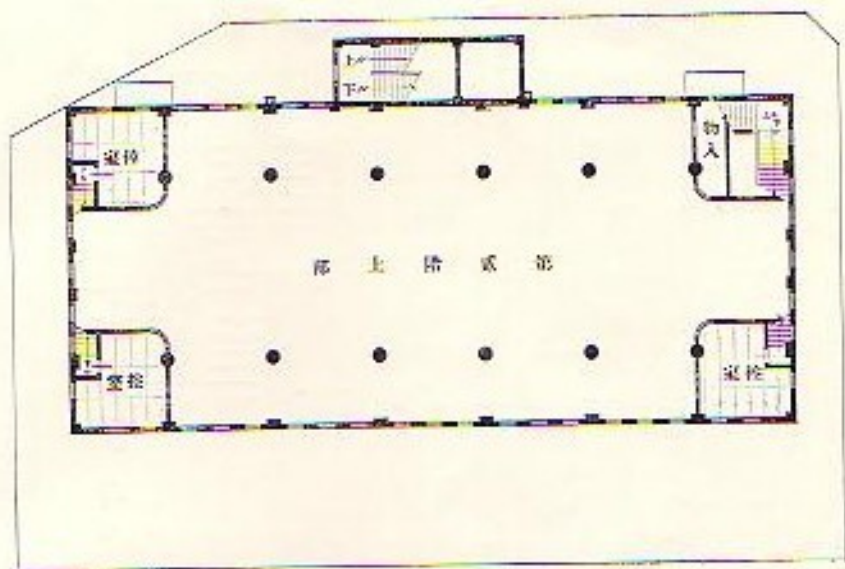
(場道弓)



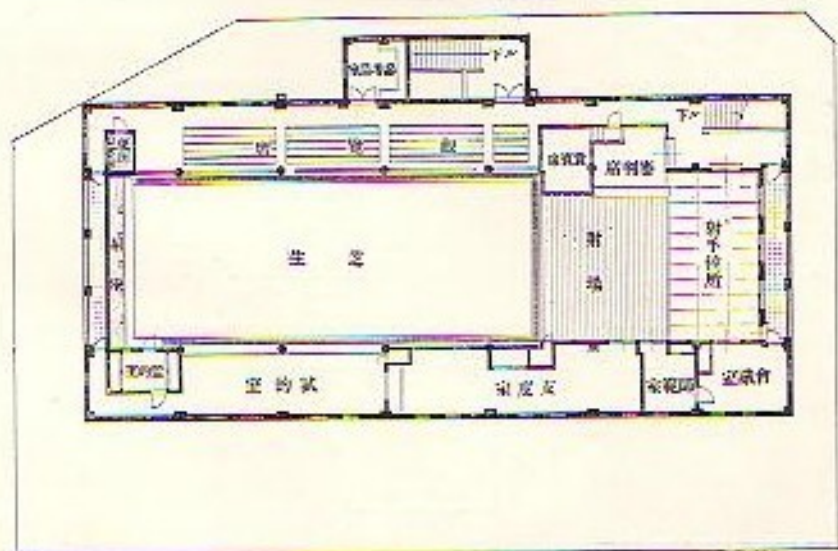
(圖面平階一)



(圖面平階二)



(圖面平階二中)



(圖面平階三)

武道館建設ノ趣旨並ニ經過

曩ニ今上陛下登極ノ御儀行ハセラル、ニ當リ吾神奈川縣ハ此御大典ヲ記念シ奉ル爲メ二大事業ヲ計畫セリ其ノ一ハ金澤文庫ノ復興昭和塾ノ建設ニシテ他ノ一ハ體育獎勵ノ施設ナリ昭和三年五月之ヲ臨時縣會ニ提案シ該豫算ノ成立ヲ見タリ其ノ後偶々本縣ガ武士道ノ精華ヲ天下ニ誇レル歴史ヲ有スルニ係ハラズ未ダ武徳殿ノ設ケナキ實狀ニ鑑ミ此體育施設ノ計畫ヲ一層意義アラシムル爲メ御大典記念縣營武道場ノ建設ヲナスベシトノ議起ルヤ官民ヲ擧ゲテ之ニ賛成シ具體案成リ昭和九年十一月建設費十七萬四千三百二十三圓ヲ以テ縣參事會ノ議決ヲ經タリ而シテ該經費ハ縣費豫算繰越金四萬四千三百二十三圓ヲ基金トシ其ノ他ハ縣内各市町村並ニ青年團、在郷軍人會、中等學校等ノ團體及一般篤志家ノ寄附ニ俟ツコト、ナレ

リ

建設ノ場所ハ横濱公園ノ東南ニ位シ敷地ハ横濱市ヨリ無償貸與ヲ受ケ昭和十年九月工事ニ着手翌十一年八月建築竣功更ニ内部諸設備ノ完成ヲ俟ツテ昭和十一年十

一月十一日畏クモ、梨本宮殿下ノ台臨ヲ仰ギ奉リ盛大ナル落成式ヲ舉行シ茲ニ神奈川縣民待望ノ武道殿堂ハ無上ノ光榮ニ浴シテ港都ノ中央ニ其勇姿ヲ現スニ至レ

武道館建築工事概要

位 置 横濱市中區横濱公園内

敷地面積 一四二一・四八八平方米 (四三〇・四〇〇坪)

建築面積 八一二・九四五平方米 (二四五・九一六坪)

總延面積 二二五一・五三四平方米 (六八一・〇八九坪)

内 譯 (各階面積)

一 階 八一二・九四五平方米 (二四五・九一六坪)

二 階 七九六・一三九平方米 (二四〇・八三二坪)

中二階 一〇一・二一七平方米 (三〇・六一八坪)

三 階 五四一・二三〇平方米 (一六三・七二二坪)

建物高さ 一五四・五四五米 (五〇〇尺) 地盤ヨリ軒天迄

建物構造 鐵筋コンクリート造三階建

但シ屋根一部ニ鐵骨トクヌヲ應用ス

間 口 四〇・五七米 (一三六・〇尺)

奥行 一八・一八米 (六〇・〇尺)

階高一階 三・四八米 (一一・五尺)

二階 六・七六米 (二二・三尺)

三階 四・〇〇米 (一三・二尺)

様式 日本趣味ヲ中心トセル近代式

設計 建物周圍ノ環境並ニ武道場タルノ本質ニ鑑ミ外觀ハ質實剛健明朗ナル莊重美ノ表現ヲ旨トセリ

劍柔道場及弓道場内部形式ハ總テ日本風ヲ基調トシ輕僑ナル裝飾ヲ避ケ單調ナルモ品位ヲ保タシムルニ務メ屋上中央部ニ避雷針ヲ設ク

建物規模 三階建 (但シ二階四階ノ一部ハ中二階)

第一階 事務室其ノ他ノ諸室

第二階 劍柔道場

第三階 弓道場

階段ヲ三ヶ所ニ取リ中央ヲ貴賓用トス

工程 昭和十年九月十三日

竣功 昭和十一年八月二十七日

建設費 基礎杭打工事費 一九、五〇〇圓

建築工事費 一三〇、八六一圓

電気工事費 三、五四二圓

補装工事費 七八〇圓

植樹工事費 二五七圓

設備並工事監督費 一九、三八三圓

計 一七四、三二三圓

設計及監督 神奈川縣總務部庶務課管轄

工事請負 基礎杭打工事 東洋コンプレッショナル株式会社

建築工事 三木組

電気工事 みよし組 電気工業部

補装工事 日本ビテュマルス株式会社

植樹工事 小出嘉四郎

武道館規程

(昭和十一年七月十七日)
神奈川縣告示第四百八十七號

第一條 本館ハ國民精神ヲ作興シ心身ヲ修練スル爲武道ヲ獎勵シ縣下武道ノ振興ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク

一 館長

二 主事

三 書記

四 師範

館長ハ神奈川縣學務部長、主事ハ神奈川縣武道主事ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ知事之ヲ任免シ師範ハ館長之ヲ委嘱ス

第三條 館長ハ知事ノ指揮ヲ承ケ館務ヲ統理ス

主事及書記ハ館長ノ命ヲ承ケ館務ニ從事ス

師範ハ館長ノ命ヲ承ケ武道ノ指導ニ任ス

第四條 本館ニ顧問及參與ヲ置クコトヲ得

顧問及參與ハ知事之ヲ委囑シ知事又ハ館長ノ諮問ニ應ズ

第五條 本館ニ評議員若干名ヲ置ク

評議員ハ知事之ヲ囑託シ重要ナル館務ヲ審議ス

第六條 館長ノ許可ヲ受ケ常時本館ニ於テ武道ヲ修練スル者ヲ館友トス

第七條 館友ハ本館ニ差支ヘアル場合ノ外開館中武道ノ修練ヲナシ師範ノ指導ヲ受クルコトヲ得

第八條 館ノ規程ニ違背シ又ハ體面ヲ汚ス等館友トシテ不適當ト認メタルモノアルトキハ館長ニ於テ

之ヲ戒飭シ或ハ其許可ヲ取消スコトアルベシ

第九條 本館ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ其ノ施設ノ全部若シタハ一部ノ使用ヲ許可スルコトアルベ

シ

第十條 本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ館長之ヲ定ム

武道館使用規則

(昭和十二年九月二十三日)
神奈川県條例第七號

第一條 本館ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限リ之ヲ一般ニ使用セシムルコトヲ得

一 武道ニ關スル集會

二 一般體育獎勵ニ關スル集會

三 修養又ハ思想善導ニ關スル集會

四 官公署又ハ公益團體ノ主催スル集會

第二條 本館ヲ使用セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ使用五日前迄ニ使用許可ヲ願出ヅベシ

一 使用ノ目的

二 使用ノ日時

三 使用希望ノ個所

四 集合豫定人員

五 使用團體名及使用責任者ノ住所、職業、氏名

六 特ニ設備ヲ要スルモノハ其ノ具體的事項

第三條 使用者ニ於テ特ニ設備ヲ爲シタルトキハ使用後直ニ原形ニ復スベシ

第四條 使用者ニシテ本館ノ建造物、器具等ヲ汚損滅失シタルトキハ其ノ損害ヲ賠償スベシ

第五條 本館ノ使用ヲ許可セラレタル者ハ左ノ使用料ヲ前納スベシ

時間	場所	劍道場	柔道場	弓道場	會議室	浴場
午前八時—正午	午後	三圓	三圓	三圓	二圓	三圓
午後零時—五時	時	四圓	四圓	四圓	三圓	四圓
午後五時—十時	時	七圓	七圓	七圓	四圓	五圓
午前八時—午後十時	時	十二圓	十二圓	十二圓	八圓	十圓

第六條 館長ハ集會ノ目的、性質等ヲ參酌シテ使用料ノ減額又ハ免除ヲ爲スコトヲ得

第七條 本館ノ使用ヲ許可シタル後ト雖モ使用ノ内容不適當ト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

第八條 前各條ノ外館ノ使用ニ關シテハ凡テ本館職員ノ指示ニ從フベシ

武道館規程施行細則

(昭和十一年九月二十八日制定)

第一章 館務

第一條 評議員會ハ館長及評議員ヲ以テ組織シ知事之ヲ招集ス

參與會ハ館長之ヲ招集シ會議ノ議長トナル

第二條 參與中ニ常任參與ヲ置キ縣社會教育課長、學務課長、警務課長ノ職ニ在ルモノヲ以テ之ニ充ツ

第三條 師範ハ左ノ三種トシ其ノ擔任スル武道ニ付館友ノ指導ニ當ルモノトス

名譽教師

專任教師

助 教 師

第四條 本館ニ別記第一號ノ簿冊ヲ備ヘ常ニ之ヲ整理シ置クベシ

第二章 事業

第五條 本館ハ常時武道練習ヲ爲スノ外左ノ事業ヲ行フ

一 武道ニ關スル祭式、大會、講習會竝ニ研究會ノ開催

二 武道階級試験ノ執行

三 官公署學校其ノ他團體等ノ主催スル武道講習會、特別練習等ニ對スル援助

四 武道參考品ノ蒐集竝ニ展覽

五 武道功勞者ノ表彰

六 修養又ハ社會教育ニ關スル諸集會

七 其ノ他本館ノ趣旨目的ニ適合スル事項

第三章 練習

第六條 常時本館ニ於テ練習スル武道ハ當分ノ内劍道、柔道、弓道ノ三種トス

但シ時宜ニヨリ前記以外ノ武道ヲ加フルコトアルベシ

第七條 館友タラントスル者ハ本籍、住所、職業、氏名、生年月日、武道種別及段級ヲ記載シタル申

込書ヲ提出シ館長ノ許可ヲ受クベシ

館友ハ名簿ニ登錄シ證章ヲ交付ス

館友ハ非ズシテ練習ニ参加シ又ハ練習ヲ參觀セントスル者ハ館長ノ許可ヲ受クベシ

第八條 館友練習ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨館長ニ届出デ禮章ヲ返納スベシ

第九條 館友ハ出席ノ都度禮章ヲ係員ニ提示シ出席簿ニ記入ヲ乞フベシ

第十條 本館ノ武道練習時間左ノ如シ

一 常 時

期 間	午 前	午 後
自四月一日 至十月三十一日	六時三十分—八時	四時三十分—六時三十分
自十一月一日 至三月三十一日	七時三十分—九時	四時三十分—六時三十分
土曜日午後ハ 零時三十分—二時		

但シ事情ニヨリ特ニ時間外ノ使用ヲ許可スルコトアルベシ

二 臨 時

寒暑其ノ他特別練習ノ時間ハ實施ノ都度館長之ヲ指定ス

第十一條 練習休止日次ノ如シ

一 日曜、祝祭日

二 自十二月二十九日
至一月三日

三 自七月十四日
至七月十六日

四 臨時館ヲ他ノ會合ニ使用スル時又ハ館ニ差支ヘアル場合

第十二條 毎月一回以上本館ニ於テ特ニ研究日ヲ定メ左ノ事項ヲ實施ス

一 特別練習又ハ試合等ヲ行ヒ館友相互ノ間ニ於ケル武道ノ研究練習

二 館友ノ質問竝ニ研究意見ノ發表及之ニ對スル教師ノ解答竝ニ講評

三 教師ノ講話及示範竝ニ名士ノ講話

四 其ノ他適切ト認ムル事項

第十三條 本館ニ於テ武道ヲ練習スル者ハ館ノ諸規則ニ從ヒ武道綱領及館友心得ヲ遵守スベシ

第十四條 館友ハ練習ニ際シ其階級ニ應ジ劍道ハ面紐、柔道ハ帶、弓道ハ襟紐ニ依リテ左記表示ヲナ

スベシ

類別	階級
劍道	段
黒	二級
茶褐色	三級
緑	四級
緑白交	五級
赤	少年 (滿十五歳未滿) 一、二級
赤白交	三、四級
白	五級
白	無級

第十五條 練習用具ハ館友各自ニ於テ携帯スベシ

本館備付ノ練習用具ヲ使用シタルトキハ相當ノ修繕料ヲ徴收スルコトアルベシ

第四章 階級審査

第十六條 武道階級ハ初段ヨリ十段ニ至初心者ノ爲メ段外更ニ一級以下五級迄ノ階級ヲ設クル

第十七條 毎年一回以上本館ニ於テ館友ニ對シ武道階級試験ヲ行フ試験ニ關シ必要ナル事項ハ施行前

館長之ヲ定ム

第十八條 階級審査ノ爲メ武道階級審査會ヲ設ケ左ノ役員ヲ置ク

一 委員長 一名

二 委員 各部六名以上

三 書記 一名

柔道	柔道
紫	黒
紫ヲ除ク外適宜	茶褐色
	緑
	緑白交
	紫
	黄
	白
	白

委員長ハ武道館長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ縣武道主事、縣警務課長ノ職ニ在ル者並ニ武道館長ノ委屬ニ依ル當該武道家四名以上トシ書
記ハ館長之ヲ命ズ

第十九條 本館ニ於テ審査スル武道階級ハ五級以上五段以下トス但シ弓道ハ三段以下トス

館長ハ階級審査ニ合格シタル者ニ對シ允許狀ヲ授與ス

第二十條 階級ヲ附與セラレタル者館友タル體面ヲ汚辱スル行爲アリト認ムルトキハ館長ハ其階級允
許ヲ取消スコトアルマシ

第五章 審判

第二十一條 武道ノ審判ハ大日本武德會ノ定ムル審判ニ關スル諸規程ヲ準用ス

第六章 支部及分會

第二十二條 本館設置ノ目的ヲ縣下ニ普及セシムル爲メ地方樞要ノ地ニ支部及分會ヲ設置スル事ヲ得
支部及分會ノ設置ニ關スル事項ハ館長之ヲ定ム

(別記) 第一號

- 一 職員名簿
- 二 役員名簿
- 三 師範名簿
- 四 館友名簿
- 五 學校武道原簿
- 六 一般武道原簿
- 七 寄附者名簿
- 八 有段者名簿
- 九 出勤簿 二 (甲)館職員 (乙)師範)
- 一〇 練習者出席簿 (館友、館友外)
- 一一 文書收受發送簿
- 一二 武道館日誌
- 一三 館友申込書編

- 一四 館友證章交付簿
- 一五 武道館使用簿
- 一六 武道館使用願書
- 一七 武道館關係書籍
- 一八 事務要錄
- 一九 武道館沿革史
- 二〇 支部關係書籍
- 二一 備品現在簿 (神奈川縣縣費所屬物品會計規則 第十號樣式)
- 二二 消耗品受渡簿 (同 第十一號樣式)
- 二三 貨與品整理簿 (同 第十二號樣式)
- 二四 修繕品受渡簿 (同 第十三號樣式)
- 二五 宿直簿
- 二六 其ノ他館長ニ於テ必要ト認メタルモノ

武道館職員及役員

同	同	同	同	同	同	同	同	評 議 員	帥 範	書 記	主 事	館 長
劍 道 範 士			横 濱 市 長	神 奈 川 縣 町 村 長 會 長	神 奈 川 縣 々 會 議 長	神 奈 川 縣 總 務 部 長	神 奈 川 縣 警 察 部 長				神 奈 川 縣 武 道 主 事	神 奈 川 縣 學 務 部 長
高 野 佐 三 郎	大 倉 邦 彦	平 沼 亮 三	青 木 周 三	加 藤 小 兵 衛	青 木 巽	中 野 與 占 郎	荒 木 義 夫	缺	大 橋 正 勝	出 志 久 保 品 一	石 井 錦 樹	

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 弓 同 同 柔 同 同 劍 神奈川縣聯合青年團理事
道 道 道 道 道 道 道 道 道 道
教 教 範 六 教 教 教 五 教 教
士 士 士 段 士 士 士 段 士 士

鈴 加 浦 鷹 岩 須 大 門 橫 白 波 金 額
木 畑 上 崎 木 藤 澤 田 松 井 部 子 額
米 長 之 正 金 辰 當 勝 綱 辰 政 次
藏 助 榮 見 惠 作 郎 良 郎 助 雄 郎 準

昭和十一年十一月九日印刷
昭和十一年十一月十二日發行

神奈川縣武道館

電話本局一〇一九番

横浜市中西橋本町四丁目十七番地

印刷者 神 戶 二 三

横浜市中西橋本町四丁目十七番地

印刷所 文 章 堂 印 刷 所

電話本局五五五七番